Auth0で実現！顧客アイデンティティが導くデジタル事業戦略の最前線

Google Cloud Next Tokyo

池山 邦彦

Senior Solutions Engineer

Okta Japan株式会社

01 **顧客アイデンティティの現状と課題**

デジタル ビジネス機会と課題
お客様事例の紹介

02 **Auth0 機能紹介**

最新・最高峰の認証・認可
高度な認証セキュリティ

03 **AI への最新の取り組み**

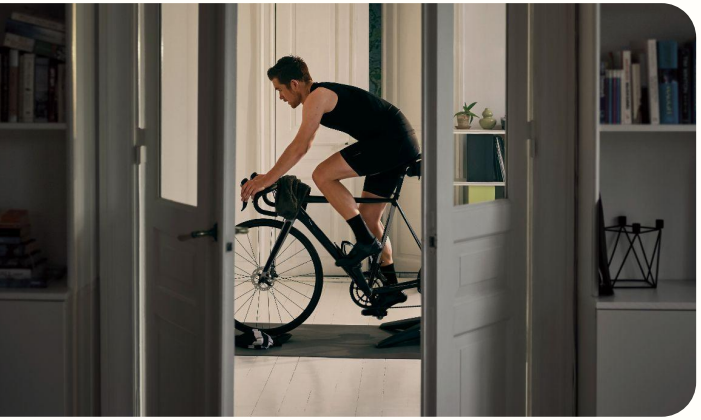
Auth for GenAI 紹介

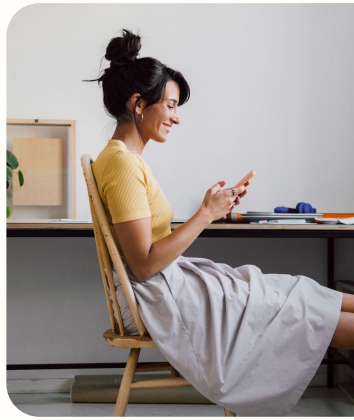
セーフハーバー

このプレゼンテーションは、1995年私募証券訴訟改革法（Private Securities Litigation Reform Act of 1995）の「セーフハーバー」条項が規定する「将来の見通しに関する記述」を含んでおり、これには当社の財務見通し、事業戦略および計画、市場動向、市場規模、機会および位置づけに関する記述が含まれますがこれらに限定されません。これらの将来の見通しに関する記述は、現在の予想、見積、予測および見通しに基づいています。「期待する」、「予想する」、「はず」、「信じる」、「希望する」、「目標とする」、「見積もる」、「目標」、「推定する」、「可能性」、「予測する」、「可能性がある」、「するつもりである」、「かもしれない」、「あり得る」、「意図する」、「行う予定」、およびこれらの用語のバリエーションや類似の表現は、将来の見通しに関する記述を識別することを目的としていますが、すべての将来の見通しに関する記述にこれらの識別語が含まれているわけではありません。将来の見通しに関する記述は、多くのリスクや不確実性の影響を受けますが、その多くは当社のコントロールを超えた要因や状況を含んでいます。例えば、世界的な経済情勢は過去にも、また将来的にも当社製品に対する需要を減少させる可能性があること、当社および当社の第三者サービス・プロバイダーは過去にも、また将来的にもサイバーセキュリティ・インシデントに遭遇する可能性があること、当社の事業が過去に経験したような成長レベルを管理または維持できない可能性があること、当社の財源は、競争上の地位を維持・向上させるのに十分ではない可能性があること、新規顧客の獲得や既存顧客の維持や追加販売ができない可能性があること、顧客数の伸びは最近減速しており、今後も減速する可能性があること、サービス停止を含む当社の技術に関連した中断やパフォーマンスの問題が生じる可能性があること、当社および当社の第三者サービス・プロバイダーは、当社が従うべき様々なプライバシーおよびセキュリティ規定を完全に遵守できなかった、または遵守できなかったとみなされたことがあり、同様の事故が将来発生する可能性があること、最近の買収や企業結合から期待されるシナジー効果や事業効率を達成できない可能性があり、また買収した企業の統合を成功させることができない可能性があること、および当社の転換社債を期限までに返済できない可能性があることなどが挙げられます。当社の業績に影響を与える可能性のある要因に関する詳細は、当社の最新の四半期報告書（フォーム10-Q）およびその他の米国証券取引委員会への提出書類に記載されています。このプレゼンテーションに含まれる将来の見通しに関する記述は、このプレゼンテーションの日時点での当社の見解を示すものであり、当社はこれらの将来の見通しに関する記述を更新する義務を負わず、またその意図もありません。

このプレゼンテーションで言及されている製品、特性、機能、認証、認可または証明のうち、現在一般に入手可能でないもの、まだ取得されていないもの、または現在維持されていないものは、予定通りに、または全く提供もしくは取得されない可能性があります。製品ロードマップは、いかなる製品、特性、機能、認証または証明を提供することを確約する、その義務を負う、または約束するものではなく、お客様は、購入の意思決定を行う際に、それに依存しないで下さい。

オンライン ビジネスの継続的な成長を実現するには？





デジタル サービスの成長・拡大の機会と課題

事業戦略に伴う機会と直面する現実的な課題

Time to market

- タイムリーな市場投入によるシェア拡大
- 新機能のよる新たな顧客獲得

顧客接点

- タッチポイントを増やして新たな事業機会を創出
- 顧客ごとのカスタマイズされたサービスの提供

開発リソース

- コアプロダクトの開発へのリソース集中
- 最新の技術スタックでモダンなアーキテクチャーを実現

事業成長の機会

デジタル サービスの成長・拡大の機会と課題

事業戦略に伴う機会と直面する現実的な課題

Time to market

- タイムリーな市場投入によるシェア拡大
- 新機能のよる新たな顧客獲得

×

レガシーな技術負債による開発スケジュール遅延

顧客接点

- タッチポイントを増やして新たな事業機会を創出
- 顧客ごとのカスタマイズされたサービスの提供

×

顧客プロファイルの解像度の欠落

開発リソース

- コアプロダクトの開発へのリソース集中
- 最新の技術スタックでモダンなアーキテクチャーを実現

×

コモディティ化された周辺機能に割かれるエンジニア工数

Time to market

レガシーな技術負債による開発スケジュール遅延

技術負債

開発スピード

標準化

サービス間
連携

顧客接点

顧客プロファイルの解像度の欠落

分断された
顧客プロファイル

データの
サイロ化

顧客体験

潜在的な
機会損失

開発リソース

コモディティ化された周辺機能に割かれるエンジニア工数

内製化

無駄な
学習コスト

セキュリティ
リスク

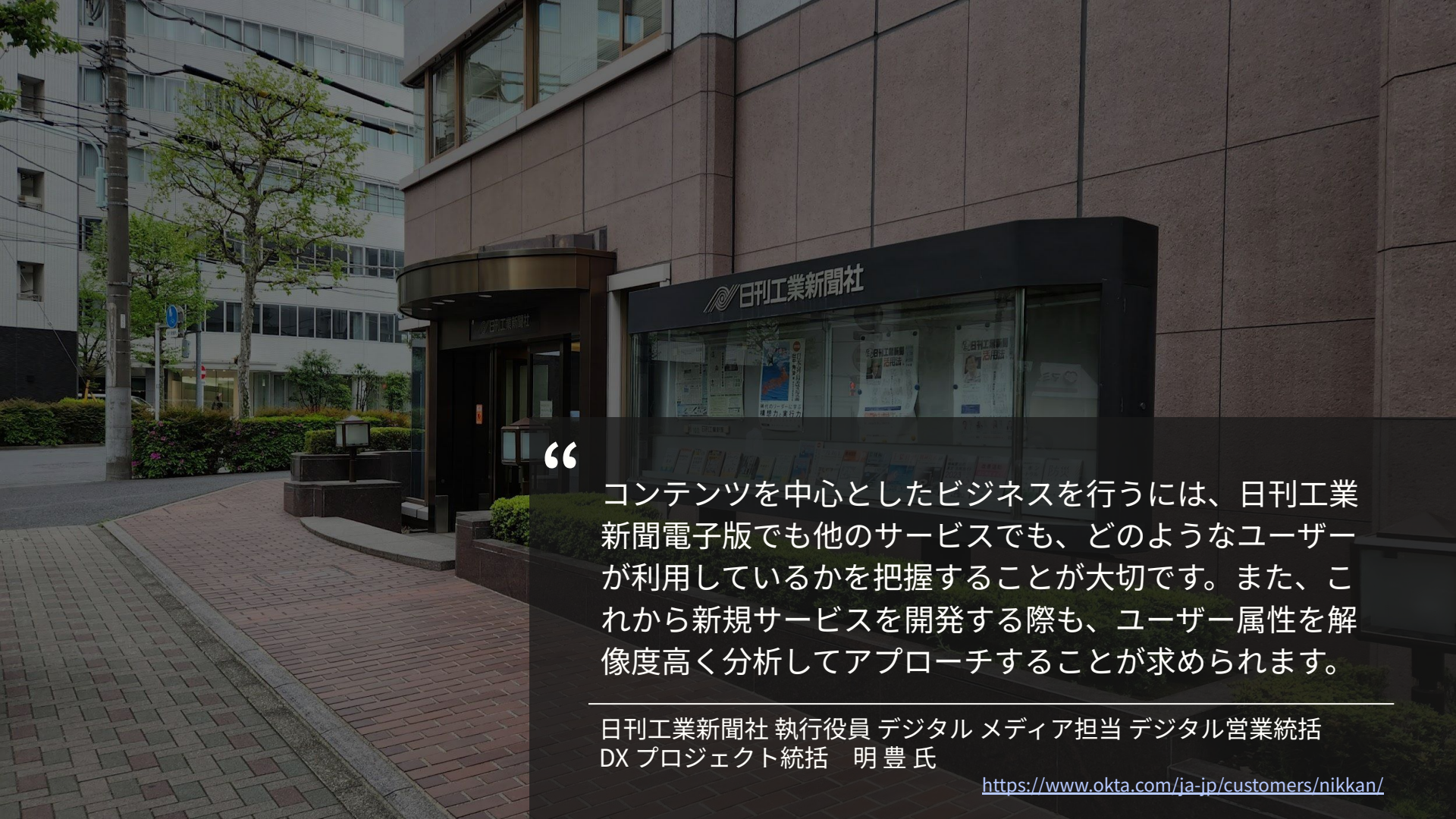
コアサービス開発のエンジニア不足

アイデンティティが最初の一歩に

認証・認可の標準化が連携と拡張を加速

ID 統合でデータと価値を繋ぐ

統合認証基盤で開発効率とリソースを最適化



“

コンテンツを中心としたビジネスを行うには、日刊工業新聞電子版でも他のサービスでも、どのようなユーザーが利用しているかを把握することが大切です。また、これから新規サービスを開発する際も、ユーザー属性を解像度高く分析してアプローチすることが求められます。

日刊工業新聞社 執行役員 デジタル メディア担当 デジタル営業統括
DX プロジェクト統括　明 豊 氏

https://www.okta.com/ja-jp/customers/nikkan/

“

認証・認可には高度な専門的知識が必要とされることから、独自開発する場合はそのためのエンジニアを雇用し続ける必要があり、運用コストが大きくなってしまう可能性があります。

株式会社ビズリーチ リクルーティング プロダクト本部 プラットフォーム開発部・部長　菊池 信太郎 氏

https://www.okta.com/ja-jp/customers/bizreach/


auth0
okta — The World's Identity Company™

okta

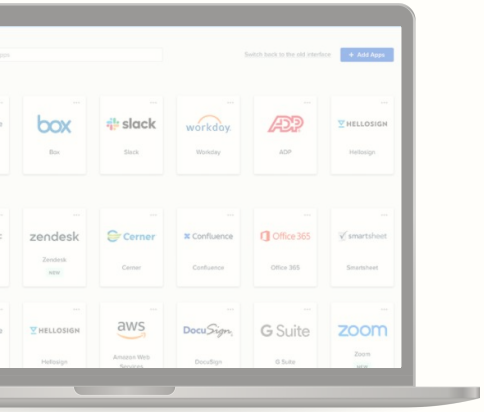
The World's Identity Company

2009年　Okta 創業

2013年　Auth0 創業

2017年　Okta が NASDAQ 上場

2021年　Okta が Auth0 を買収
顧客と従業員の両方にシームレスで安全なアクセスを可能に

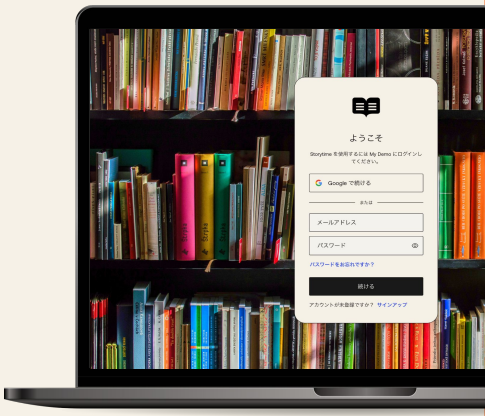


okta

従業員、契約社員、取引先社員が
安全にアクセスできるように

auth0

お客様に対して
安全なアクセス環境を構築・提供



auth0

Auth0 が提供する主な機能

顧客アイデンティティ管理における主要な機能をカバー

シングル サインオン

一度の認証で複数のアプリケーションへのシームレスなアクセス体験

多要素認証

不正アクセスから利用者と企業を守る
厳格かつインテリジェントな認証

Attack Protection

ボットや漏洩した認証情報の利用など不正なログイン試行をブロック

認証連携

ソーシャルログインやエンタープライズ接続（SAML, OIDC）といった外部サービスによる認証と連携

ユーザー移行

既存のユーザーをパスワード リセットなく移行

各言語対応の SDK

さまざまなアプリケーションの種類や言語に対応した SDK を使って簡単に
組み込み

カスタマイズと拡張性

マーケットプレイスの 3rd party サービスとの統合からノーコード／プロコードでのカスタマイズまで

認可と権限制御

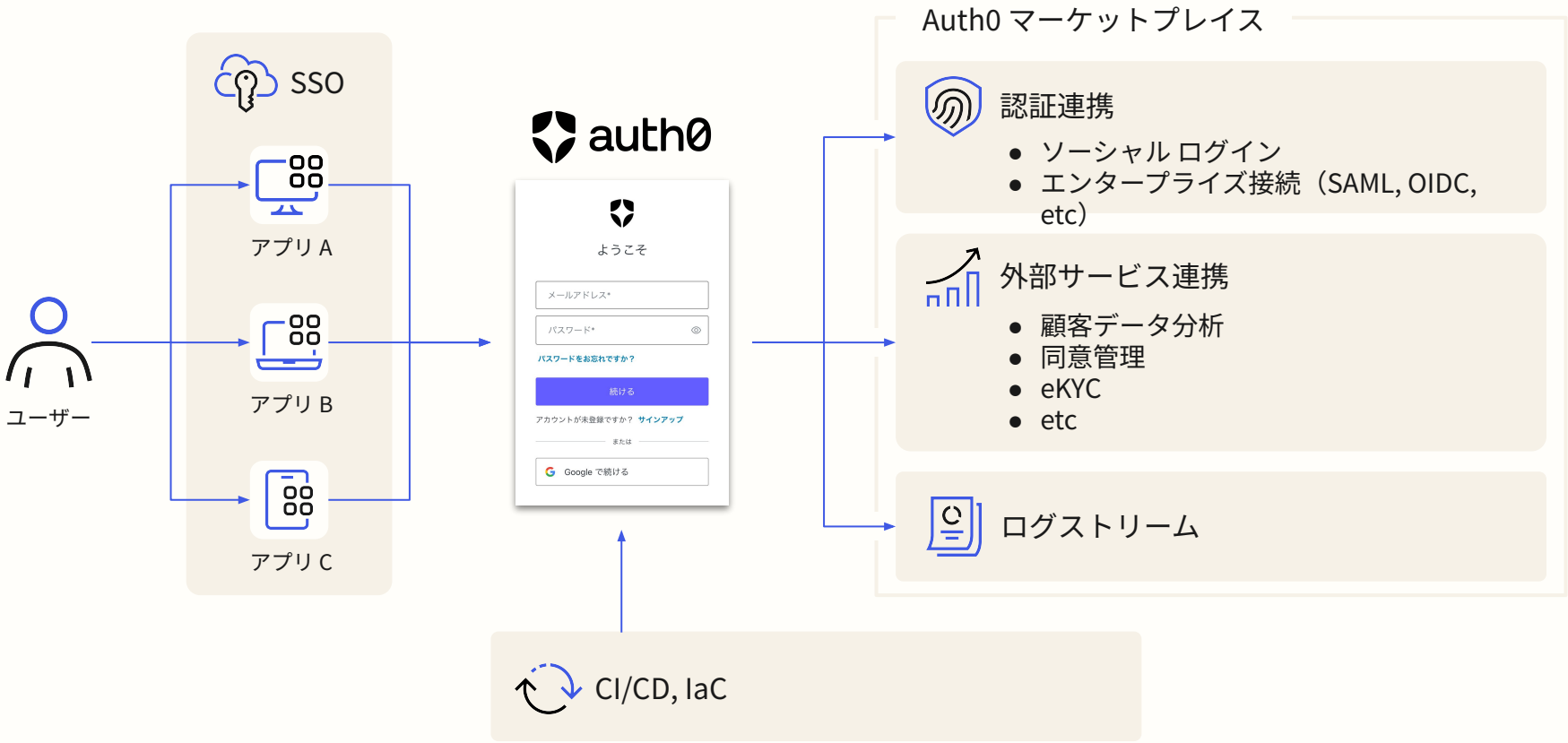
認証パイプラインで RBAC による権限管理からオブジェクト単位でのより細かい粒度での認可をサポート

マルチテナントSaaS

マルチテナント サービスの認証・認可のカスタマイズをサポート

auth0

Auth0構成イメージ



最新・最高峰の認証・認可

認証・認可の基本機能から最新の技術までカバー

auth0

短い開発期間で最新の認証をデプロイ

新機能を短い期間でリリースすることで開発者リソースを最適化

ノーコードで素早くデプロイ

100% SaaS プラットフォームにより迅速な展開と迅速な拡張が可能

充実したドキュメントを兼ね備えたプラットフォーム

直感的にわかりやすい UI と細かい設定まで可能な API を使って、専門知識なしで高度な認証を利用

ネイティブAPIライブラリとすぐに使えるSDK

幅広いユースケースで統合可能な API ライブラリとOut-of-the-box の SDK により、設定、カスタマイズ、調整が容易

コードで設定管理

テナント構成をバージョン管理（GitHub など）に保存し、CI/CD パイプラインを使用して新しいテナントを迅速にデプロイ

ユニバーサルログイン Universal Login

ユーザーの安全なアクセスとブランドのカスタマイズ

シームレスでアクセスしやすいユーザー体験

認証画面のブランディングを柔軟にカスタマイズ

アプリケーションから認証画面へのシームレスなユーザー体験を実現

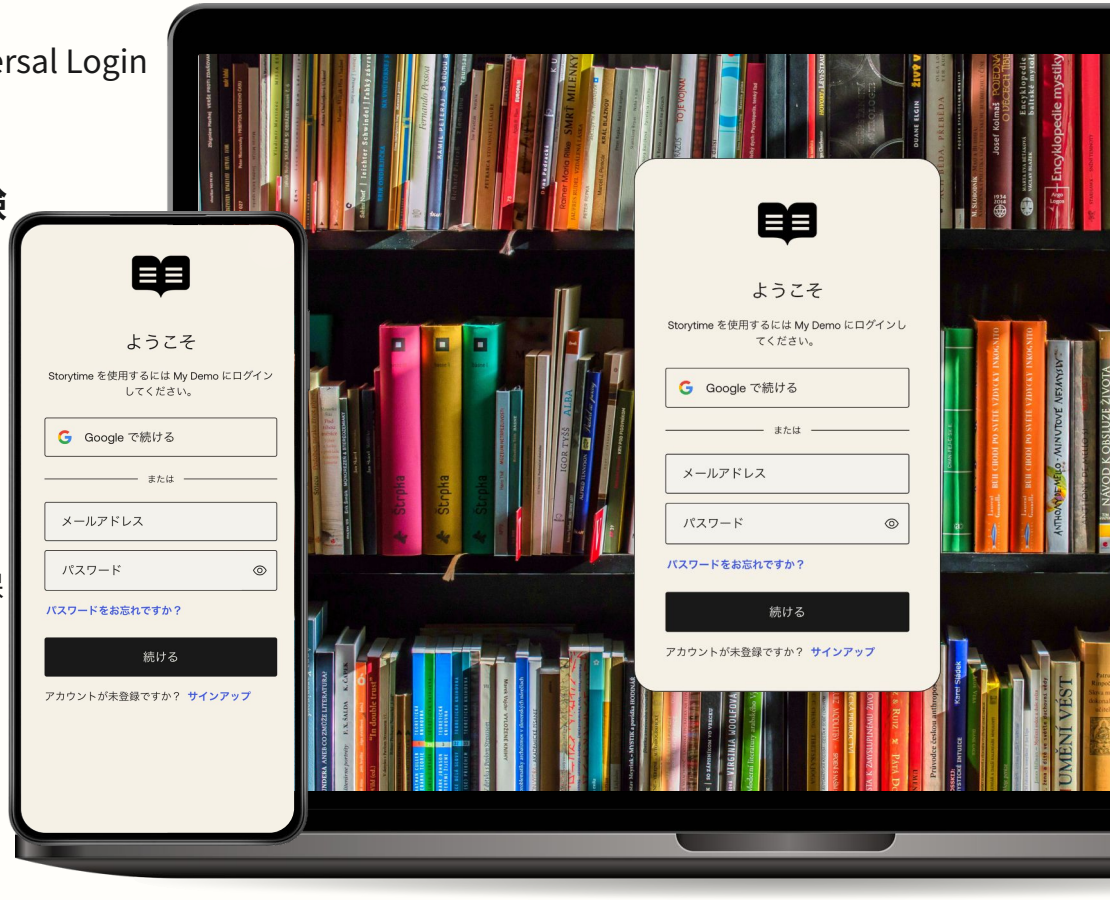
WCAG 2.2 AA および EN 301-549 標準に準拠

セキュリティ機能で安全なアクセス

ボット検知や漏洩パスワード検知等のセキュリティ機能を Out-of-the-box で有効化してユーザーのアクセスを保護

開発者体験の向上

簡単な UI および API でカスタマイズして開発者効率を最大化してチームがコアサービスの開発に集中できるように



さまざまな認証方式をカバー

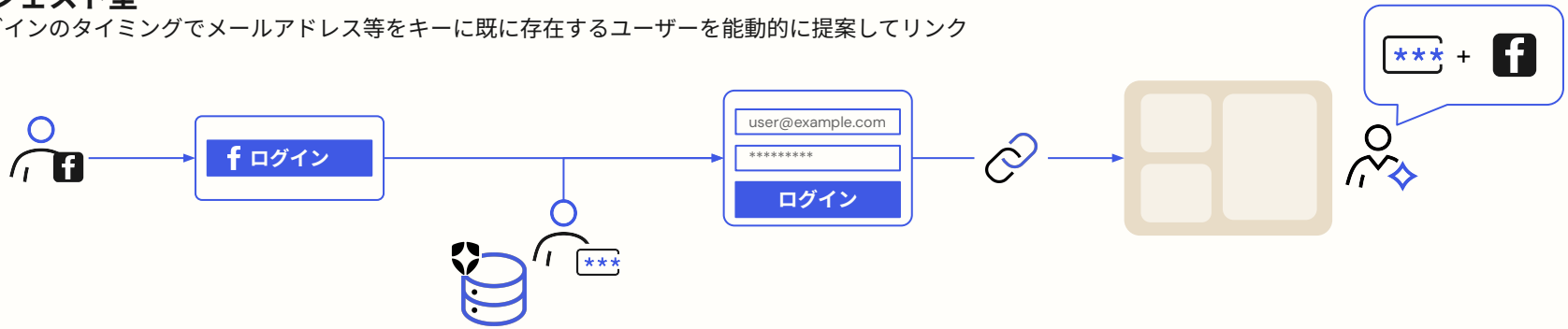
- ☑ ユーザー体験やセキュリティレベルに合わせて任意に設定可能
- ☑ いずれも開発者フレンドリーな UI や API で簡単に追加・変更
- ☑ ユースケースに合わせたカスタマイズも可能

アカウント リンク

認証方式ごとに作られた異なるユーザー アカウントを同一アイデンティティにまとめて1ユーザーにつき1アイデンティティで運用

サジェスト型

ログインのタイミングでメールアドレス等をキーに既に存在するユーザーを能動的に提案してリンク



ユーザー操作型

アプリケーションのユーザー プロフィール画面等からAPIを使ってユーザー操作でリンク

より速く、簡単で、安全なログインをパスキーで実現

パスワードの代替となる FIDO 標準に基づくログイン方法

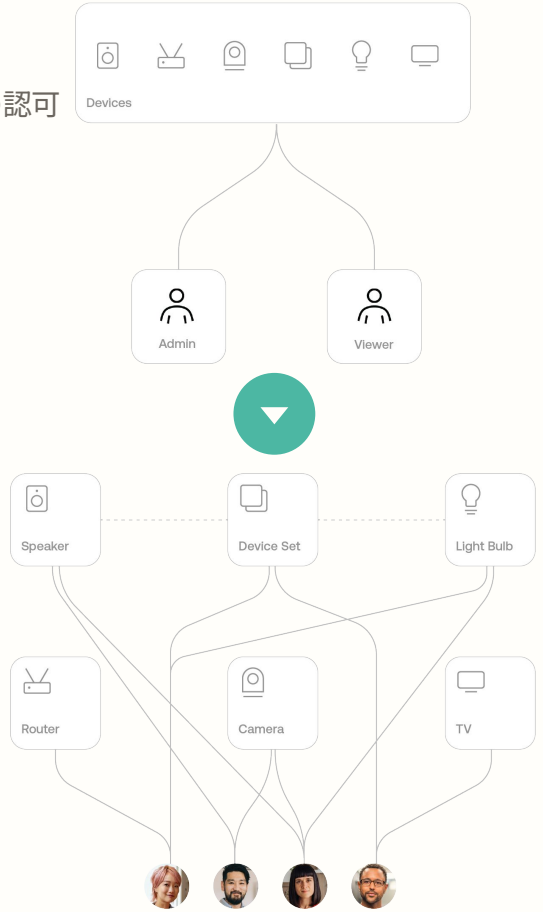
FIDO 認証によるフィッシングに強いセキュリティと
最高のユーザー エクスペリエンスを提供

- 公開鍵暗号を用いたパスワードの代替手法
- 認証情報は同一エコシステム内での複数のデバイスに跨って利用可能
- エンドユーザーは携帯端末のロック解除と同じ方法でパスキーにアクセス

Fine Grained Authorization

オブジェクトとユーザーの関係性から細かい粒度のアクセス制御を実現するための認可

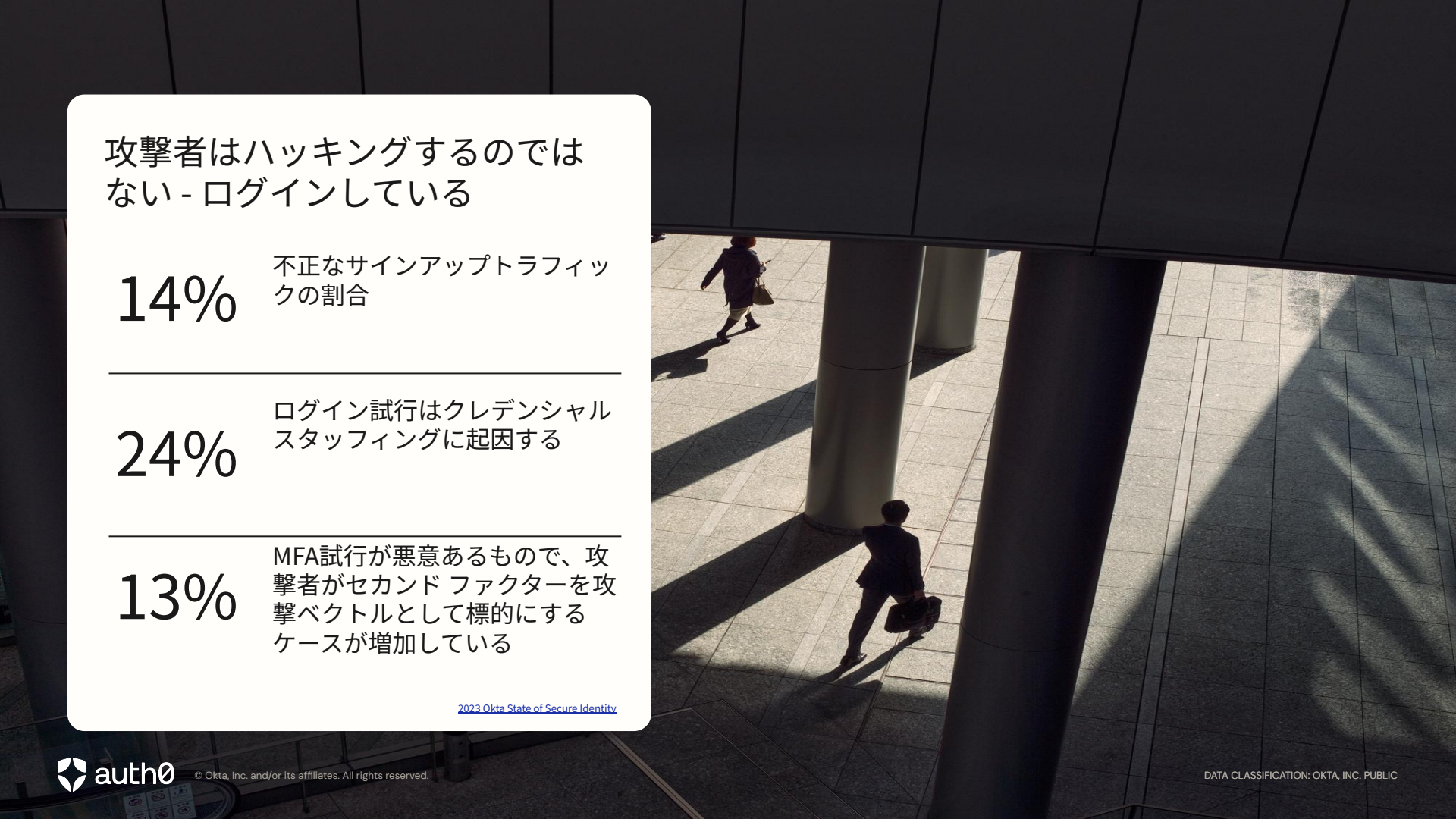
従来の認可方式	Fine Grained Authorization
Role Based Access Control (RBAC) をはじめとした荒い粒度の認可	Relation Based Access Control (ReBAC) をベースにしたオブジェクト単位での **細かい粒度の認可**
ハードコードによって生じる拡張性とスケーラビリティの欠如	共通言語で構成された認可モデルによる **柔軟な拡張性** と **エンタープライズ規模のスケーラビリティ**
可読性と保守性の低い実装	**開発者フレンドリーな API** と **豊富な SDK**



高度な認証セキュリティ

認証のあらゆる脅威に多層的に防御

auth0



攻撃者はハッキングするのではない - ログインしている

14% 不正なサインアップトラフィックの割合

24% ログイン試行はクレデンシャルスタッフィングに起因する

13% MFA試行が悪意あるもので、攻撃者がセカンド ファクターを攻撃ベクトルとして標的にするケースが増加している

2023 Okta State of Secure Identity

CIAM におけるユーザー体験の劣化は収益の天敵となる

83%

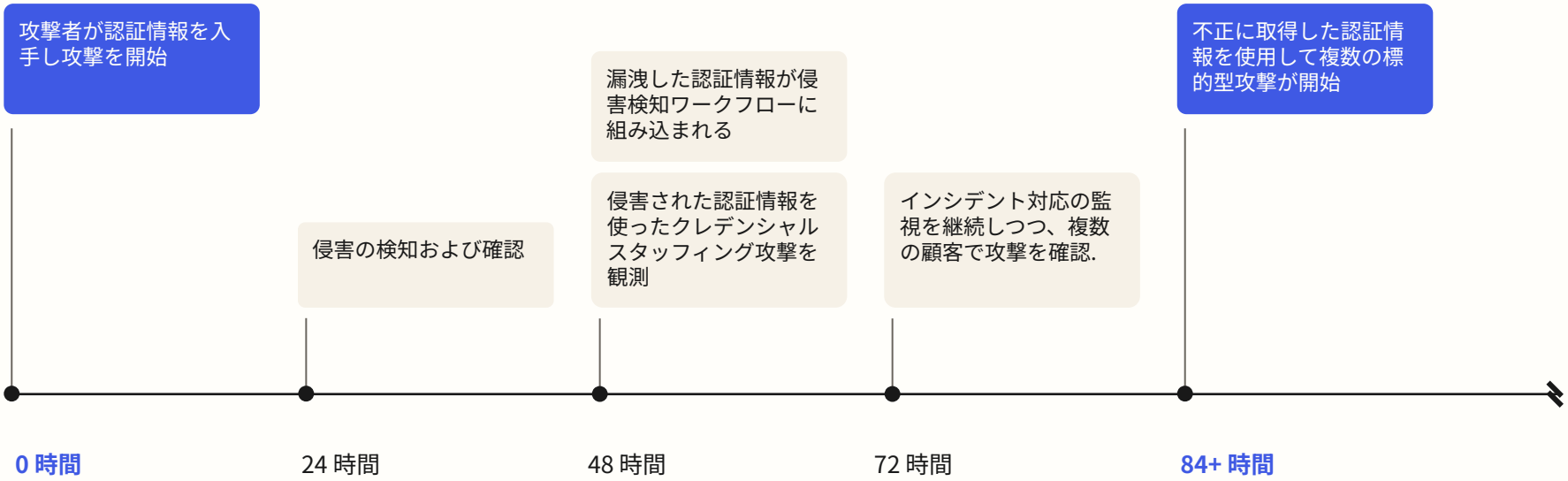
の消費者はログイン プロセスが難しいという理由で購入を断念する[1]

$12M

ユーザー登録ページにシンプルなフィールドを追加したことによる機会損失[2]

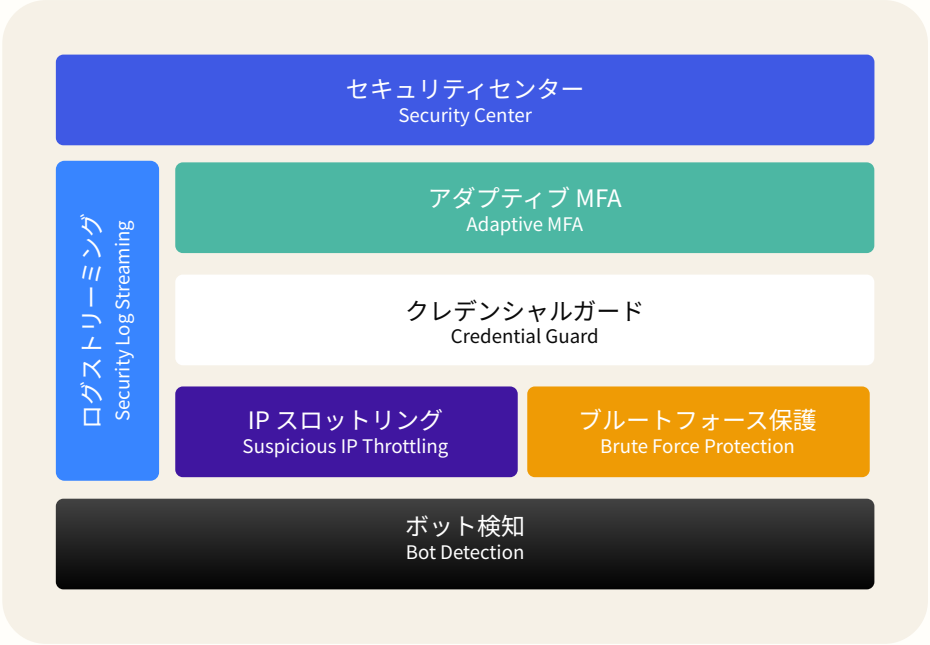
出典:
1. Customer Identity Trends Report
2. ZDNET

漏洩した認証情報は数日のうちに複数のサイトで使用される



アイデンティティセキュリティに多層防御のアプローチを提供する Attack Protection

- ID ベースの攻撃を検知し、対応するためのツールを提供する機能の集合体
- ユーザー体験を損なうことなく、顧客とビジネスを保護
- クレデンシャルスタッフィング攻撃から防御し、アカウント乗っ取りを防止する安全対策を導入



Auth0 導入によって期待される効果

お客様からいただく導入効果に関する声を反映

認証・認可関連の最新技術を容易に導入

パスキーのような最新のパスワードレス認証技術も数クリックで簡単に実現

ソーシャル ログインや多要素認証を数分の操作で設定可能

開発者リソースの最適化

簡単に高機能な認証基盤を導入することで開発者リソースをコアサービス開発に集中

製品の市場投入を加速

アクセス集中にも対応できるスケーラビリティ

標準で 100rps（秒間リクエスト）、最大で 10,000rps まで対応可能なスケーラブルな
プラットフォーム

認証に関する最新のセキュリティ対策

パスワード漏洩やボット検知といった高水準の認証セキュリティ対策

指紋認証にも対応可能な多要素認証

ISO27001, ISO27018, SOC 2 Type II 等のコンプライアンス認証も取得
https://auth0.com/security

耐障害性とサービス継続性

高可用性を誇る SLA99.99% でサービス提供
直近の稼働状況: https://status.auth0.com/

マルチリージョン デプロイによる GeoHA

認証・認可の標準化による拡張性

OAuth2.0, OpenID Connect, SAML2.0 等の標準に準拠したプラットフォーム

外部サービスとのAPI連携も容易となり拡張性が期待できる

auth0

Auth0 で実際に認証システムを開発するにあたり、もっとも大きなメリットとして感じたのは、**国際基準の品質のよい認証システムを素早く構築できる**点です。

生活協同組合コープさっぽろ デジタル推進本部 システム部 樋口 修也 氏
https://www.okta.com/ja-jp/customers/coop-sapporo/

これまでは OSS とスクラッチの開発の部分にデータが分散して存在していましたが、Auth0 の導入によってデータを一元的に集約でき、**管理上の手間やセキュリティ対策が非常にやりやすくなりました**。

株式会社ドワンゴ, NFC事業プロジェクト VP of Engineering, 千代川 仁 氏
https://www.okta.com/ja-jp/customers/dwango/

Auth0 を導入したことでサービスごとに認証機能を開発する必要がなくなり、開発コストや開発リソース、開発工数を大幅に削減できました。そして、こうして**創出された時間を顧客価値の向上へとつながるプロダクトのコア開発に使える**ようになりました。

ディップ株式会社　商品開発本部 システム統括部 R&D 推進室 テックリード 佐草 和哉 氏
https://www.okta.com/ja-jp/customers/dip/

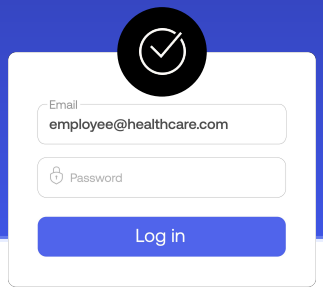
AI への取り組み

AI 活用における認証・認可とセキュリティに関する Auth0 の最新の動向

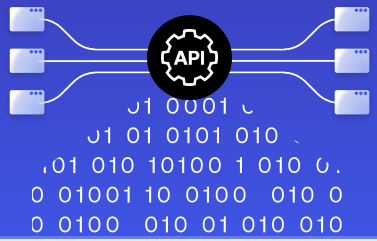
auth0

GenAIアプリケーションを構築するための4つの認証要件

AI が求めるのは
私が誰であるかを
知ること



AI が求めるのは
ユーザーの代わり
にAPIをコール

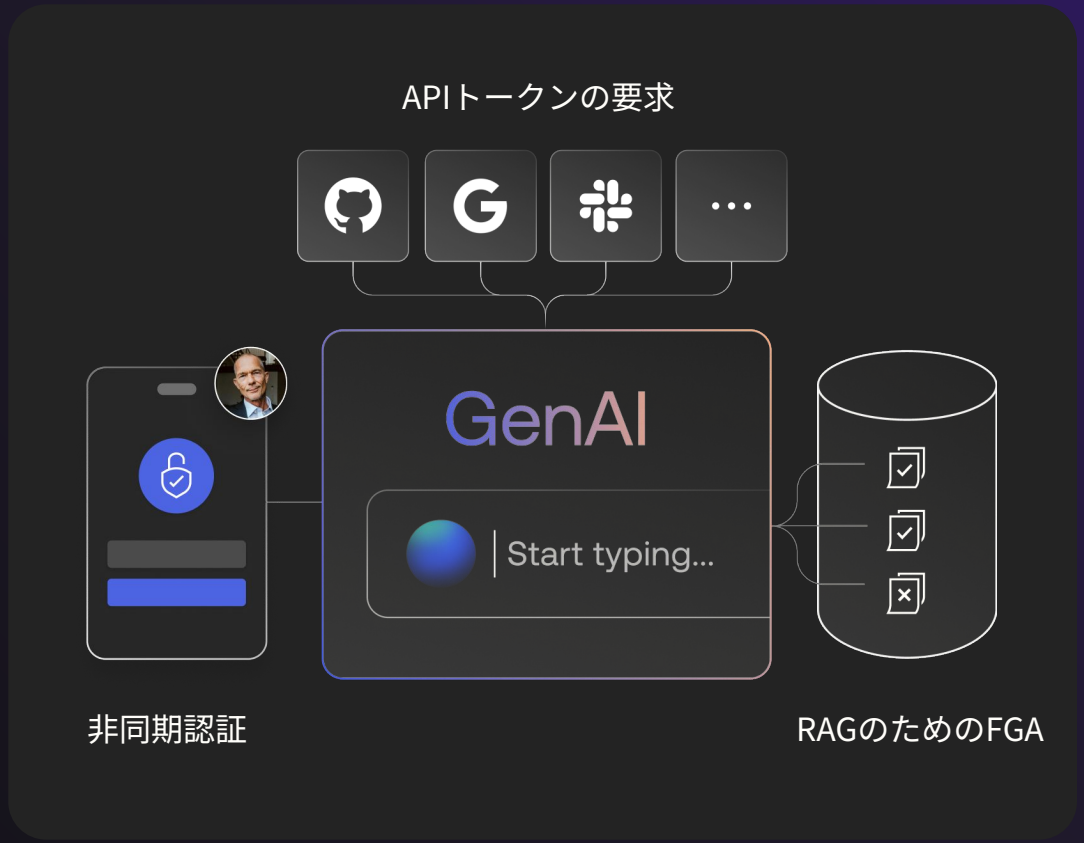


AI が利用するのは
非同期ワークフロー

AI のデータアクセスは
ユーザー権限を考慮し
なければいけない

Auth for GenAI

- **すべてのサービスでIDを統一**
  ユーザー、API、AI モデルを1つのプラットフォームで保護
- **より迅速な導入と IT 負担の軽減**
  AI チームは ID 管理ではなく、イノベーションに集中
- **AI の成長に合わせて拡張可能**
  単一のチャットボットや全社的な LLM の展開等、お客様のニーズに適応

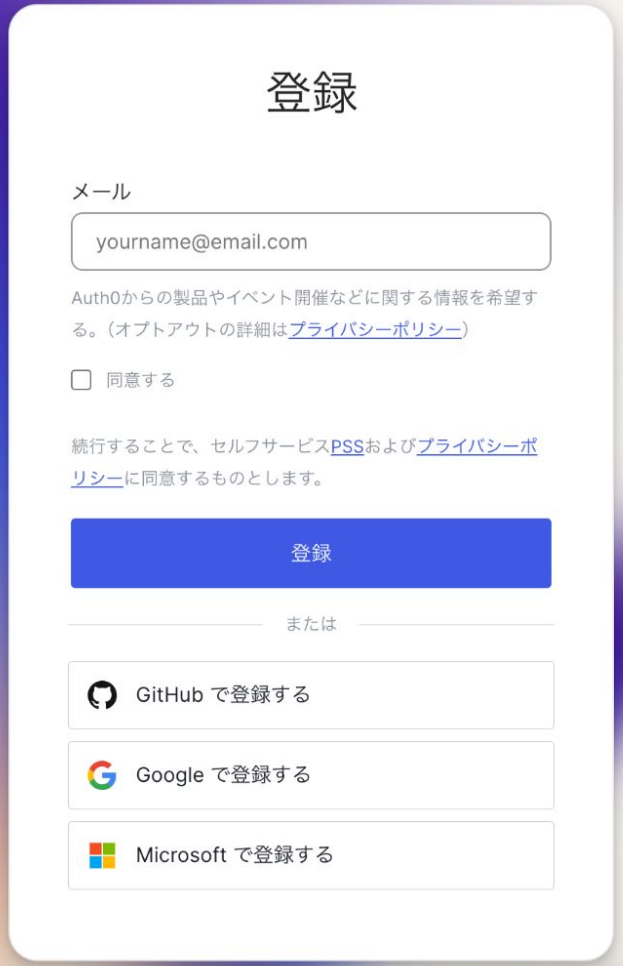


auth0

無料プランで構築を開始

クレジットカード不要。

https://auth0.com/jp/signup



ご清聴ありがとうございました。